

政策分野 VI - 3 千葉の特徴・歴史を生かした文化・スポーツ振興

千葉の伝統文化の保存・継承や新しい文化芸術の振興を図るとともに、誰もが文化芸術を享受できる環境づくりを進めます。

また、全ての県民がライフステージに応じた多様なスポーツに親しめるよう環境整備を進めるとともに、障害のある人もない人も、共に楽しめるみんなのスポーツとしてのパラスポーツの普及を図ります。

施策項目 VI - 3 - ① 文化芸術の振興

目 標

あらゆる人々が文化芸術に親しみ、
交流することで、心豊かな県民生活と
活力ある地域社会をつくり育むことを目指します。

現状と課題

文化芸術は、県民が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で欠かせないものであるとともに、教育、地域づくり、産業など社会のあらゆる分野と関わり、地域社会の発展と県民の活力を高めていく貴重な財産です。

東日本大震災の発生後、文化芸術が心の支えとなり、地域コミュニティ再生のきっかけとなるなど、文化芸術の果たす役割が再認識されました。令和元年度に度重なる台風や集中豪雨によって県内各地が甚大な被害を受けた際も同様であり、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、人々が不自由な生活を強いられる状況下では、心の癒しや感動、生きる活力を与える文化芸術の必要性が一層高まっています。

このような中、これまで県では、文化振興計画や、「千葉県文化芸術の振興に関する条例」に基づき文化芸術の振興に取り組んできました。

本県には長い歴史の中で育まれてきた郷土芸能、食文化、伝統技術等、多様な伝統文化が脈々と受け継がれています。こうした多様な伝統文化は、人々の地域への愛着や誇りを醸成する源であることから、少子高齢化が進行する中であっても県民の財産として未来へ継承していくことが求められます。

また、本県は首都圏にありながら豊かな自然環境に恵まれており、自然や広い野外空間を活用した音楽イベントや芸術祭、ダンスイベント等が県内各地で開催されています。県民の心豊かな生活を実現す

るためには、本県のこうした特徴を最大限に生かした自然との一体感を感じられる文化芸術活動や、時代の流れの中で生まれた新しい文化芸術活動を積極的に振興し、多くの県民に親しまれる活力ある若々しい「ちば文化」の創造に取り組んでいくことも必要です。

さらに、東京2020大会を契機に、新型コロナウイルス感染症の拡大による制約を受けつつも、県による参加・体験型の文化プログラムや、多くの団体・個人による多彩な文化芸術活動が展開され、様々な分野の融合や新たなネットワークなどが生まれました。

今後も、それらを継承・発展させ、県民が表現活動に取り組むことができる環境を整えるとともに、県民の心の豊かさや誇りの醸成につなげ、地域活性化の起爆剤としても活用していくことが重要です。

あわせて、子ども・若者をはじめあらゆる人々が文化芸術に触れる機会をつくること、文化資源を生かし他分野との連携を推進すること、「ちば文化」をブランドとして県内外での認知度を高めることなども必要です。

加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大による「新しい生活様式」に対応した文化芸術の在り方についても考えていく必要があります。

取組の基本方向

障害の有無や年齢等にかかわらずあらゆる人々が文化芸術を享受できるよう、様々な機会の提供、活動への支援、人材の育成などの環境づくりを行うとともに、地域の伝統文化が次世代へ継承されるよう取り組みます。特に、次代を担う子どもや若者が文化芸術に触れる機会の充実や表現の場の拡大を図ります。

また、本県固有の歴史・文化・豊かな自然、東京2020大会により得られたレガシー等、千葉の強みを生かした新たな価値の創造や「ちば文化」のブランド化を進めるとともに、文化芸術の新しい表現や保存の手段としてICTを活用していきます。さらに、観光・まちづくり・産業等様々な分野との連携を推進し地域活性化を図ります。

主な取組

VI-3-①-1

あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

文化芸術活動を行う県民の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等にかかわらず、誰もが文化芸術活動を行い、鑑賞できるよう、機会の提供、理解の促進、人材の育成、支援等を行います。

また、文化芸術活動の拠点として、重要な役割を果たす文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）の利用環境の充実を図ります。



千葉県文化会館

あらゆる人々が文化芸術に触れ親しむ
機会の提供、関心及び理解の促進

文化芸術活動の担い手や
それを支える人材の育成・支援・活用

文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）
の機能の充実

SDGs



VI-3-①-2

ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

本県の多様な伝統文化を知る機会を提供するため、美術館・博物館や学校等における展示や普及事業、ICT等を活用した情報発信を行うとともに、伝統文化に係る地域の関係者・関係機関と連携し、伝統文化の保存・継承・活用を図ります。

また、文化財や文化的景観等についても、保存・活用を進めていきます。

ちばの多様な伝統文化を
知る機会の提供

伝統文化の保存・継承

文化財・文化的景観等の保存と活用

SDGs





太巻き寿司



なめろう

VI-3-①-3

新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

固有の歴史・文化に加え、東京2020大会で得られた新たな文化資源や、広い野外空間などを最大限に活用し、文化芸術が社会の様々な場面で輝く機会を創出できるよう、様々な関係者によるネットワークの構築に取り組むほか、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等の広範な分野と連携した文化資源の活用と地域の活性化を図ります。あわせて、文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）の多面的な活用を進めます。

様々な関係者による
文化芸術のネットワークの構築

観光等の様々な分野と連携した
文化資源の活用と地域の活性化

文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）
の多面的な活用

SDGs



県立美術館における幼稚園団体鑑賞

VI-3-①-4

次代を担う子どもや若者が ちばの文化芸術に触れる機会づくり

次代を担う子どもや若者の豊かな感性を育むため、文化芸術や伝統文化の鑑賞・体験機会を創出します。

また、美術館・博物館と連携し、県内の文化財を活用した、出張授業やオンライン講座、創作体験など、芸術や郷土の宝に触れる機会を充実させます。

さらに、若者自身による文化芸術活動の促進のため、創造的な文化芸術活動への支援や、文化芸術活動に参加し、自己表現できる機会を提供します。

豊かな感性を育む文化芸術、
郷土の歴史・伝統に出会う機会の充実

若者の文化芸術活動の支援

伝統文化を担う子ども・若者の育成



VI-3-①-5

ちばの強みを生かした 文化芸術の創造・発信

様々な機会を捉えた情報発信や、文化資源の活用により、本県固有の歴史・伝統文化等の「ちば文化」のブランド化を進め、認知度向上と県民の誇りの醸成につなげます。

また、最新のテクノロジーを取り入れた創作活動の促進や、伝統文化と他の文化芸術分野とのコラボレーション、国際交流での活用により、新たな「ちば文化」の創造を推進していきます。

「ちば文化」のブランド化による
認知度向上と県民の誇りの醸成

最新のテクノロジーや国内外との交流を
取り入れた新たな「ちば文化」の創造





県民の日 ちばワクワクフェスタ 2019

ひとくちコラム 千葉県生誕150周年

令和5年は、木更津県と印旛県の合併により、明治6年6月15日に千葉県が設置されてから150周年の節目の年となります。

県では、千葉県生誕150周年を、県民の郷土への愛着や誇りを一層高めるとともに、県内外から人を呼び込む絶好の機会と捉え、海や里山などの本県の豊かな自然環境を生かした芸術祭や記念事業などを展開し、千葉ブランドの価値の創出・向上や地域活性化につなげていきます。



施策項目 VI - 3 - ② スポーツの振興

目 標

「する」「みる」「ささえる」スポーツ^{*}の更なる推進のため、
全ての県民が、スポーツを「知る」、
すなわちスポーツの意義や価値を理解することにより、
ライフステージに応じた多様なスポーツに日常的に親しみ、
健康で活力のある生活を送り、
互いに支え合うコミュニティの形成を図ります。
また、障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備を進めます。

現状と課題

県が実施した令和3年度の「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果によると、幼児期における運動遊びの実施率や、子育て世代・働き盛り世代のスポーツ実施率の伸び悩みが見られます。県民にとって、身近な場所でスポーツを行える総合型地域スポーツクラブの活性化や、スポーツ指導者の確保・質の向上を通して、誰もがスポーツを通じて、健康づくりや生きがいづくりに取り組むことのできる環境の整備が必要です。

さらに、スポーツを「知る」こと、すなわちスポーツの意義や価値、様々なスポーツの存在などについて理解を深めることにより、「する」「みる」「ささえる」スポーツがより身近に、より楽しくなり、より深く関わることができるものとなります。このため、東京2020大会を契機に注目されたサーフィンやスケートボード、県民の興味・関心が芽生えたパラスポーツなどを含め、多様なスポーツに関する情報などをより効果的に発信し、県民がスポーツに親しむ機会の拡大につなげていくことが重要です。

東京2020大会の開催や、新型コロナウイルス感染症の影響による「新しい生活様式」への変容、運動不足による体力低下への懸念等を、改めてスポーツの意義や価値を見直す機会とし、共生社会の実現に向け、高齢者や障害のある人等が積極的に参加・貢献していくことができるよう、誰もが生涯にわたり、スポーツに親しむことができる環境づくりを進めていくことが重要です。

特にパラスポーツについては、障害のある人の心身の健康の保持増進だけでなく、スポーツを通じて社会参加を促す効果があることから、障害のある人が生き生きと自分らしくパラスポーツに参加できる環境を整備していくことが必要です。

また、パラスポーツは、障害のある人への理解を広げることにも寄与することから、誰もが分け隔てなく一緒に楽しめる環境を整備するとともに、パラリンピックの開催を契機として芽生えてきたパラスポーツに対する興味・関心を実際の参画につなげていく必要があります。

取組の基本方向

全ての県民がスポーツに親しむことができるよう、ライフステージに応じたスポーツ習慣を確立するための情報提供や環境整備、近年注目されているスポーツを含め、多様なスポーツに関する情報や魅力の発信、スポーツに関わる人材の育成を進めます。

また、選手の発掘・育成・強化及び指導者養成等、県内のアスリートの競技力の向上を図るとともに、トップアスリートを講師として地域に派遣するなど、選手強化の取組の成果を地域スポーツに還元する取組を推進します。

さらに、スポーツの価値の発信と地域づくりに取り組み、全ての県民が健康で活力ある生活を送り、スポーツを通じてお互いに支え合うコミュニティの形成を図ります。

あわせて、東京2020大会の開催を契機として、パラスポーツやマリンスポーツの普及など大会のレガシーを継承・発展させ、スポーツの振興につなげます。

パラスポーツについては、競技人口の増加や県民の理解促進を図るため、パラスポーツイベントの開催や、指導者等の養成、相談体制の構築に取り組むほか、競技団体の組織体制の整備や体験会の開催への助成、パラスポーツの拠点となる千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの設備の充実などを進めます。また、パラリンピックやデフリンピック^{*}、スペシャルオリンピックス^{*}世界大会や全国障害者スポーツ大会等、トップレベルの大会にも県ゆかりの選手を数多く輩出できるよう、パラスポーツ選手の育成や強化支援に取り組めます。

主な取組

VI-3-②-1

人生を豊かにするスポーツの推進

誰もがスポーツを通じて豊かな人生を送ることができるように、身近な場所でスポーツを行うことができる総合型地域スポーツクラブの設立支援や、県立スポーツ施設の無料開放などを進めます。

また、県民が気軽に参加できるイベントを開催するとともに、それぞれの年齢や体力、興味関心等のニーズに応じて、多様なスポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすく」提供していきます。近年県民の関心が高まっているスポーツについての情報、魅力の発信にも取り組んでいきます。

さらに、生活習慣病予防に関する知識の普及啓発や、高齢者に適したスポーツの推進など、高齢者の健康づくり及び介護予防に向けた取組を行います。

ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進

多様化するスポーツライフの充実・発展

パラスポーツの推進(再掲)

SDGs





千葉県シニアスポーツ大会



ねんりんピック千葉県選手団入場

VI-3-②-2 誰もが共に楽しめるパラスポーツの推進

東京2020大会の開催を契機として、共生社会の実現に向け、誰もが積極的に参加・貢献していくことができるよう、パラスポーツを通じた子ども同士の交流及び共同学習の推進や、パラアスリートによる特別授業など、子どもの頃からパラスポーツに親しむことのできる環境整備を進めます。

また、障害のある人もない人も、共にスポーツを楽しむ「パラスポーツフェスタ」を開催し、パラスポーツの魅力を広く発信するとともに、各地域においても、イベントやスポーツ教室等の開催により、パラスポーツへの参画人口を増やし、障害のある人が地域の中で様々な人々と交流を深めるなど、スポーツを通じて社会に参加することができるよう、各関係機関へ働きかけます。

さらに、パラアスリートの発掘・育成や、パラアスリート県強化指定選手所属チーム、競技団体への支援を行い、競技団体の組織体制の強化や競技人口の増加を図っていきます。

あわせて、千葉県障害者スポーツ大会の開催や、全国障害者スポーツ大会への選手派遣、パラリンピックやデフリンピック、スペシャルオリンピックス世界大会への参加支援、県内で開催されるパラスポーツ国際大会への支援等を行い、本県のパラスポーツの一層の推進を図ります。

パラスポーツの推進

パラアスリートへの強化・支援の推進



パラスポーツフェスタちば



パラアスリート強化・支援事業(パラバドミントン)

VI-3-②-3 スポーツ環境の整備・充実

県民がスポーツに親しむ機会を広げるため、スポーツに関わる指導者の養成や指導力の向上を図るなど、指導者を有効に活用していきます。障害者スポーツ指導員の養成についても計画的に進め、幅広い種目の指導者から気軽に指導を受けられ、スポーツを楽しめるような仕組みづくりを検討します。

また、県民が安全・安心に利用できるよう、社会体育施設の耐震化や老朽化対策を進め、機能の向上を図るとともに、県民にとって身近なスポーツ施設である県立学校の体育館やグラウンドの開放を進めます。

総合型地域スポーツクラブについては、広くその機能の周知を図るとともに、地域の中学校、高等学校等の運動部活動の拠点としていくなど、有効活用を推進します。

さらに、千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの利用を促進するため、設備の充実や広報活動等によりパラスポーツの拠点として機能を充実させるとともに、地域のスポーツ施設を利用しやすいように環境整備に努めます。



千葉県スポーツ推進委員連合会研修会

人材の育成

施設の整備と有効活用

誰もがスポーツに参加できる
組織基盤の充実・発展

パラスポーツの推進(再掲)

SDGs



VI-3-②-4 競技力の向上

各競技団体と連携し、ジュニア世代や女性アスリートを含め、幅広い選手の発掘・育成・強化や指導者、専門スタッフ等スポーツに関わる様々な人材の育成、スポーツ医・科学の積極的な活用を行い、競技力の向上に取り組みます。

また、アスリートが自分を信じ、それぞれの夢に果敢にチャレンジできるよう、競技用具等の整備をはじめ、ICTを活用した映像分析による競技支援、アスリートのキャリア開発としての企業等への進路支援などを進めます。

さらに、各競技の主軸となる競技力を有する企業等の運動部を「トップチーム」として指定し、強化練習の支援等を行います。

加えて、オリンピック・パラリンピック選手、国民体育大会等で活躍したトップアスリートや指導者を講師としてスポーツ関係団体等に派遣するなどして、選手強化の取組の成果を地域スポーツに還元することにより、更なるスポーツ振興を図ります。

選手の発掘・育成・強化
及び指導者の養成・資質向上

競技力向上のための環境整備

スポーツ医・科学の積極的な活用

組織・調査等の充実

競技スポーツの充実及び好循環



茨城国体現地激励会



車椅子バスケットボールのトップアスリートによる小学生への特別授業

VI-3-②-5 スポーツの価値の発信

アスリートと連携し、県民に広くスポーツの価値や魅力、楽しさを伝える取組を推進します。

また、マリンスポーツやサイクリングなど、本県が持つ多様で豊かな自然や地域の特性を生かしたスポーツイベントの開催などを通して、参加者と地域の交流やスポーツを核とした地域の活性化を目指します。その一環として、「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を2つの柱とする「ちばアクアラインマラソン*」に取り組んでいきます。

さらに、東京2020大会のレガシーの継承・発展として、マリンスポーツの振興、ホストタウン相手国等との国際交流、オリンピック・パラリンピック教育の理念を引き継ぐ取組などのほか、「新しい生活様式」への変容やデジタル技術の活用により生まれる新たなスポーツの形や価値の発信を通して、スポーツに対する関心を高めます。

アスリートと連携した
スポーツの価値の発信

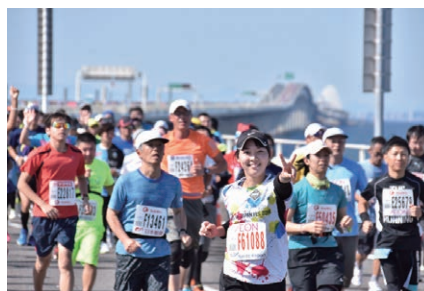
地域資源を生かしたスポーツライフの
推進と千葉の魅力発信

オリンピック・パラリンピックの
レガシーの継承・発展

「新たなスポーツ」の周知・研究



プロサッカーチームによる小学生への授業の様子



ちばアクアラインマラソン

ひとくちコラム ちばアクアラインマラソン

ちばアクアラインマラソンは、「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会です。千葉県自慢の絶景や特産品、多彩な沿道応援などの千葉の温かいおもてなしは、参加することでしか味わえない本大会最大の魅力です。東京湾アクアラインから望む海と空の大パノラマの中、爽快感と普段は決して味わえないアクアラインを踏みしめる高揚感を感じながらランナーが走ります。

